日本被団協ノーベル平和賞受賞
駐ノルウェー大使主催祝賀レセプション
岩屋外務大臣挨拶（杉山駐ノルウェー大使代読）
2024 年 12 月 10 日（火）15 時～

日本被団協の皆様、

　この度のノーベル平和賞の受賞を、心からお祝い申し上げます。長年にわたり核兵器の廃絶や被爆の実相に対する理解の促進に取り組んでこられた皆様が、このような栄誉ある賞を受けられたことは、極めて意義深いことであり、我が国にとっても大変名誉なことです。日本政府を代表して、祝意を述べさせていただきます。

　広島と長崎に投下された原子爆弾により、いかに多くの尊い命が奪われ、一命をとりとめられた方々がどれほどの苦難を強いられたのか、私を含む後の世代の者たちが知ることができたのは、皆様が御自身の被爆体験を証言し続けてくださったからこそです。核兵器の使用による惨禍を決して繰り返してはならないという切なるメッセージを、世界に力強く発信してこられた被団協の皆様の長年の御努力に対し、心からの敬意を表します。

　唯一の戦争被爆国である我が国は、「核兵器のない世界」の実現に向けて国際社会の取組を主導していく歴史的使命を負っています。こうした信念の下、日本政府は、核兵器不拡散条約の維持・強化のため、「ヒロシマ・アクション・プラン」の下で現実的かつ実践的な取組を進めてまいりました。

中でも、被爆の実相を世界にしっかりと伝えていくことは、あらゆる取組の原点です。核兵器使用の惨禍を知る被爆者や、その記憶を語り継ぐ若い世代の方々には、「非核特使」・「ユース非核特使」として活動いただいておりますが、これに加えて、日本政府としても、これまで、世界中の指導者や若者の被爆地訪問を呼びかけ、実現してきました。また、我が国が拠出し国連が立ち上げた「ユース非核リーダー基金」プログラムを通じ、次世代の育成にも取り組んでいます。

今後も、被団協の皆様を始めとする被爆者の方々とも連携しつつ、被爆の実相の理解促進を一層強化していきたいと考えています。

残念ながら、核軍縮をめぐる国際社会の分断の深まりやロシアによる核の威嚇により、核軍縮をめぐる情勢は一層厳しさを増しています。しかし、我々の目指す「核兵器のない世界」への道のりがいかに厳しいものであろうとも、我々は一歩ずつ、着実にその道を歩んでいく覚悟です。

被爆の実相への正確な理解を世代と国境を越えて促進し、「核兵器のない世界」を実現するために不断の努力を継続していくことを改めて誓い、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

日本国外務大臣
岩屋　毅